

□ 「ものがたり」とは何か □

1 「ものがたり」とは何か

「ものがたり」とは、本校独自の表記の仕方です。これは「社会構成主義」を背景にした「ナラティブ・アプローチ」という考え方に基づいています。「ナラティブ・アプローチ」は近年、社会学や文化人類学、臨床心理学等に取り入れられており、特に医療のケアの分野で注目されている考え方（手法）です。

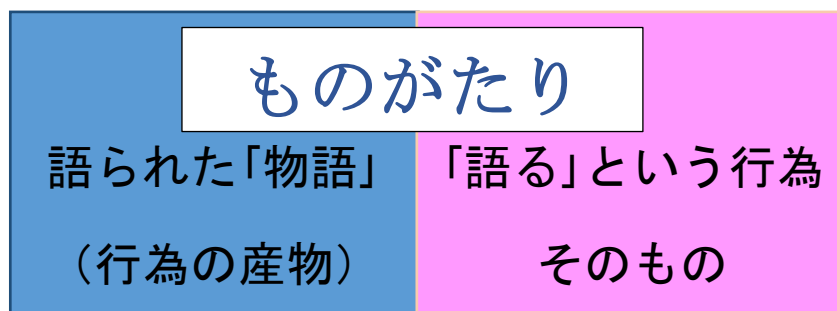


ナラティブとは「語り」または「物語」と訳されます。「語る」という行為と、「語られたもの」という、行為の産物の両方を包含する言葉です。双方を一語で表す日本語がないので、通常は「ナラティブ」とカタカナ表記をします。

ある事件（現実）を説明しようとするとき、「物語」は大きな力を発揮します。「科学」が「必然」と「客観」の世界であるのに対して、「物語」は「偶然」と「主観」を多く含むからです。「なるほど、それも有り得る」という理解です。だから人間は、ある事件（現実）を一つの物語として理解できたとき、その事件（現実）を「本当に理解した」と感じる（納得できる）のです。

もう一つ重要なのは、「物語る」という行為そのものです。例えば「人前で話すことの苦手な自己」を語った者は、以後それを語った者として存在することになります。「物語る」という行為が、人をそれまでとは違う人間にするのです。ナラティブ・アプローチが医療の、特にケアの分野で注目されている理由です。困難な現実直面していても、それを語ることで、現実に対する新たな意味づけや価値づけができ、克服していく力になるというのです。

本校では、上記のようなナラティブ・アプローチの考え方を取り入れ、語られた「物語」と、「物語る」行為の両方を包含する概念として「ものがたり」とひらがな表記しています。



2 「ものがたり」の持つ力

では、「ものがたり」の授業とは何でしょうか。

『「ものがたり」の持つ力を生かすように学習活動を組織した授業』です。では、その「ものがたり」の持つ力とは何か？

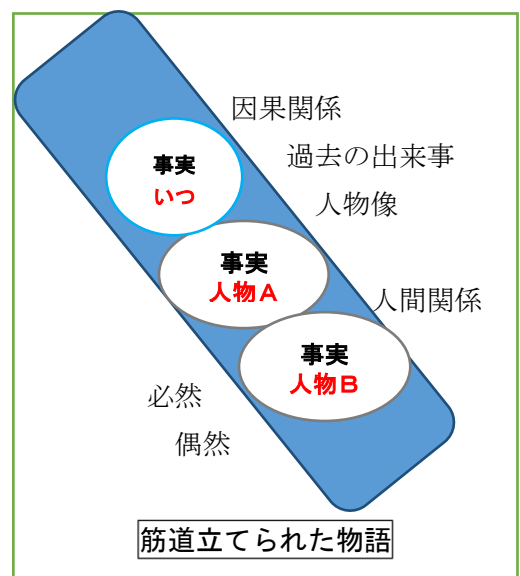
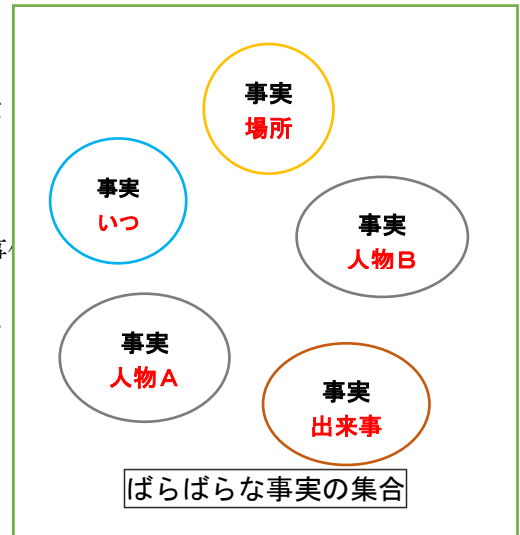
(1) 実感を伴う、深い理解が得られる

前章で、「人間は、ある事件（現実）を一つの物語として理解できたとき、その事件（現実）を『本当に理解した』と感じる（納得できる）」と書きました。

これを具体的に説明します。新聞やテレビでは様々な事が報じられます。そこには多くの事実（5W1H）は示されますが、それだけでは単なる事実の集合にしかすぎません。一続きの「物語」になっていないため、「なぜそんなことが起こったのか」「どうしてそうしてしまったのか」などが分か

りません。そのため、しばらくするとそんな事件があったことすら忘れてしまうでしょう。

ところが、さらに踏み込んだ報道があり、背後にある人間関係や、個々の人物の置かれた状況、また、「その日たまたま」等の偶然や「過去にこんなことがあった」という背景などが分かってきたとします。それを自分の過去の知識や経験とすり合わせ、一つの「物語」として筋道立てることができたとき、「なるほどそうだったのか」「それもあり得る」という実感を伴う深い理解に到達できるのです。



(2) 主人公（主体）になれる

近年、「〇〇物語」というキャッチコピーのついた商品が多く見受けられます。「小豆島物語」「たびものがたり」「大江戸温泉 【「小豆島物語」パンフレットより】 【たびものがたり】



物語」等、他にもたくさんあります。これらは「物語」の持つ力を生かしたキャッチコピーです。

「物語」には必ず主人公が存在します。そして、主人公が様々な人物と 【「大江戸温泉物語」パンフレットより】



関わり合い、幾つもの事件を経て、クライマックスに

たどり着きます。つまり「〇〇物語」という商品は、「あなたが主人公ですよ」と言っているのです。「あなたが主人公で、あなただけの特別の体験ができ、最後にはクライマックス（大きな満足）が待っています」ということを暗示しているのです。

つまり「物語（ものがたり）」が生まれるためには、自分が主人公でなければなりません。外部から何かを受け取るだけの存在では「ものがたり」は生まれないのです。自ら主体的に関わっていく存在であるからこそ、自分だけの特別な「ものがたり」が生まれるのです。

(3) 語ることで、意味や価値を実感できる

「語る」行為には、必ず聴き手が必要です。自分と異なる他者に、自らの「ものがたり」を伝えようとするなら、ただ思いつきを言葉にするだけではいけません。相手に分かってもらうためには、事実の因果関係を筋道立てて、論理的に説明しなければなりません。その中で、「ものがたり」の新たな意味や価値に気づいていきます。



つまり、それまで「〇〇だ」と思っていた出来事が、他者に語ることによって「△△だった」と気づけるということです。医療におけるケアの分野での「ナラティブ・アプローチ」は、正にこの力を重視しています。マイナスの事実だけを認識し、うちひしがれていた患者が、語ることによって、事実の關係に新たな意味を発見し、希望を見いだすのです。



以上三つの「ものがたり」の持つ力を授業に生かそうとするのが本校の「ものがたり」の授業です。